平成 18 年度鳥取市政懇話会　第 1 回文化観光部会議事要旨

日時：平成 18 年 5 月 30 日（火）午後 2 時 40 分～4 時
場所：鳥取市福祉文化会館 5 階第 2 会議室
出席者
【委　員】岡垣委員、池原委員、沖委員、須崎委員、山本委員　＜欠席　福本部会長、植木委員、下田委員、細田委員、森田委員、森山委員＞
【鳥取市】林副市長、木村観光コンベンション推進課長　＜事務局（企画調整課）＞井上スタッフ

協議内容
＜2009 因幡の祭典（仮称）について＞
○井上スタッフ　2009 因幡の祭典（仮称）概要（案）ということで資料をつけております。私もそのプロジェクトチーム、事務局の一員として参加させていただいております。

5 月 26 日に、商工会議所、商工会連合会、青年会議所などの代表の方にお集まりいただいて、意見交換会をし、こういうイベントを一緒にやっていこうということを了承していただいた資料です。

内容に入っていきますと、鳥取をもっとよく知っていただくことが目的で、いろんな方法、いろんな事業、いろんなイベントで鳥取をよく知っていただくイベントをやっていこうということです。特に観光、文化が地域の経済の活性化に寄与するように、東部圏域、因幡地域全体、さらには但馬地域、東伯耆地域まで取り入れて、一緒にいろんなことをやっていこうということ。それで地域や観光地の魅力、もてなしの心をこのイベントを通して高めていって、住民総参加で取り組むということ。

もうひとつ、この因幡の祭典というものを知っていただくための情報発信に取り組むということにしております。

ここでは本当に骨格しか示していませんが、これから皆さんにいろんなアイデアを募りながら、どういうことをやっていこうかということを考えていくことにしています。

基本的な考え方としては、東部の広域的なイベントであり、通年型の取組みであること。毎日何かがどこかでイベントがなされているような状況を作ります。また、これまでの役所主導ではなく、民間の方が自主的に取り組んでいただくものを我々行政がサポートしていくようなスタイル、そういうことによって地域の住民の方が総参加でイベントに取り組んでいただきたいなと思っています。

期間、会場は、一応 2009 年に鳥取自動車道が開通という運びになるようですので、この年をターゲットに考えておりますし、会場は、東部一円、あらゆるところでいろんなことをやっていこうということを考えています。

具体的にどういうものが対象になるのかちょっとわかりにくいので、内容として一例を示しておりますが、例えば鳥取砂丘を活用した取り組み。実際に既に砂像が今、2 体ありますが、ああいう砂像を使って鳥取砂丘の新しい魅力をつくり出し、それを吸引力として、また砂丘に新たなスタイルで観光客を呼び寄せていくということが可能性としてあるのではな

いかなということ。もう一つは、因幡の魅力を体験していただく取り組み。常に鹿野、それと河原、用瀬で体験していただいたように、やりようによっては、ありのままの因幡地方そのままのものでも全然違う視点でとらえられる、そういうようなことをいろいろ取り組んでいったらどうか。例えば、○○村エコツアーとしておりますが、例えば段々畑、棚田が非常にきれいな村に皆さんに来ていただいて、一日、その村のあちこちで遊んでいただくというようなツアー、森に入ってみたり、野原を歩いてみたり、そういうツアーもあり得るのではないかなということです。そういうことをいろんな方々に自主的に取り組んでいただけるように考えていきたいと思っています。

コンベンションの積極的な誘致というのは、そういういろんなイベント、ガイドとかをエクスカーション、オプショナルツアーとして取り組んでいただくことで、この時期に鳥取でコンベンションをやるとちょっとおもしろいことがあるなという、吸引力として一つ使えるのではないかということで、積極的にコンベンションを誘致していきたい。

目標としては、やはり鳥取で一番問題になるのは宿泊のキャパシティ。2,000 泊ぐらいしかない中で何万人もお客さんに来てもらおうと思ったら、宿泊がどうしても最大のネックになるわけで、それを効率的に誘客しようと思ったら、土日だけとか 8 月とか 5 月の連休時期だけではなくて、平日でも平準化して、ずっとお客さんが来てくれるような取り組みをすることが恐らく重要なのではないかと思います。

今後の予定として、事務局は一応、観光コンベンション推進課の中にプロジェクトチームなるものができて、観光コンベンション推進課が 3 名、それと私、企画調整課から 1 名、それと高速道路の直接の担当である都市政策課から 1 名、合計 5 名が一応事務局体制として設置してあるところです。今後は、先ほどお話しした商業関係、それと青年会議所関係、とにかくいろいろな関係する人に入っていただいた連絡調整会議ということで、いろんなことを決めていきたいと思います。行政だけであれこれ決めるのではなく、例えばいろんなイベントを募集するにしても、どうやって募集したらいいか、いつからいつまで募集しようかということまで、そういういろんな方に話を伺いながら決めていただきたいなと思っているところです。その中で事業募集、選定をして、その中から、要は事業を実行する人が集まった実行委員会をつくりたいと、これはこれまであまりなかったのではないかと思いますが、そういうスタイルの実行委員会をつくりたいと。その実行委員会の中でイベント全体の基本構想を決定していきたいなと考えておるところです。

また、この事業が進む中で、皆さんにいろいろと御意見を伺うことになろうかと思いますので、そのときはまたよろしくお願いしたいと思います。

○委員　この因幡の祭典については、ほかの 3 つの部会もこの話をしますか。

○井上スタッフ　いや、そのようには考えていないです。

○委員　この事業は地域づくり、産業振興、全部に関係する。一番大事ではないか。

○井上スタッフ　そうですね。内容が煮詰まった段階で資料提供していきます。

○木村観光コンベンション推進課長　この事業の準備が、とても急ぐのです。

地域の素材づくりには、3 年というのは決して時間が十分あるという状況ではありません。例えば鹿野の取組みでも、景観形成に 10 年、地域づくりの取組みに 5 年掛かって、ようやくあそこまでになるのです。そのことを考えたら、残されている時間というのは、もう非常に短い。

○井上スタッフ　では、とりあえず因幡の祭典については、これから随時御意見をいただくということで、またご指導いただきたいと思います。

＜部会市内視察について＞

○井上スタッフ　次は、懸案でした市内視察の話です。資料をつけておりますが、ここから皆さんが行かれたところは省いて、皆さんがあんまり行かれていないところだけ見ていただいたらいいのではないかなということで、一か所ずつ行きたいかどうかということを御判断いただきながら、また足りないところがあれば追加していただきたいと思います。

玄忠寺はみなさんご存知でしたらよろしいですね。

多鯰ケ池は、これはトンネルを通らない、今の 9 号線の旧道のさらに旧道から行くと、とてもよいスポットがあるのですよね。さらにそこから 50m ほど手前から遊歩道があって、途中まで歩いてもらったらいいのではないかなと思います。

ラッキョウ畑は、ラッキョウ畑のど真ん中を今、6m幅の道路が途中まで走っているのです。そこを通っていただきます。

○木村観光コンベンション推進課長　19 年に開通します。ちょうど砂丘センターの下手側に出てきます。10 月の末ぐらいになると淡い花が咲いて、ラベンダーとまではいかないけれども、海を借景にして、異国的な非常にいい景観ができますね。

○委員　県外からでも、いつ花が咲きますかという問い合わせがたくさんあります。写真を撮りたいということで。そういうのがあるということは有望ですよね。

○木村観光コンベンション推進課長　ここは売れると思いますね。売っていかないといけないと思います。

○委員　季節感がすごく大事だと思うのですね。多鯰ヶ池でも秋と春先、すごくきれいなのですよ。

○木村観光コンベンション推進課長　そうですね。だから、今、不法投棄がひどくて、底深くタイヤとか電気関係のものが取れないような状況に廃棄してあります。人を呼ぶ前にまずあれをきれいに除去していかないといけません。鳥取市のモラルを問われます。

○委員　そうですね。

○井上スタッフ　そのあとは湖山池に行きます。阿弥陀堂を見ていただきたいと思います。

○委員　吉田璋也さんが、湖山池が一番きれいに見えるところと言って建てられたものです。

○木村観光コンベンション推進課長　山の奥みたいな感じの、ちょうど中腹ぐらいに建っていて、前面に湖山池が広がって、島がね、ぽんぽんと見える、ちょうどいい位置にあるのです。

○委員　そうかそうか、阿弥陀堂いう名前を調べて、昔、行ったことがある。

○井上スタッフ　もし御賛同いただければ行ってみたいと思います。管理人さんが民芸協会さんなので、事前に連絡をとらないと入れないので。

○木村観光コンベンション推進課長　おととし湖山池の名物料理の試食会を阿弥陀堂を借りてやったのです。8 人ぐらいでお堂を使わせてもらったのですけど、やはり雰囲気はいいです。だから、夜、ろうそくの火ぐらいで、隣の茶室の方から琵琶法師さんにでも雨月物語ぐらいを語ってもらって、目の前に、湖面に満月のこういうのが、浮かんでいる。本当に昔の幽玄風雅の世界ができると思う。

○委員　幽玄の世界を奏でるようなね。そういうのができたらいいですね。

○井上スタッフ　例えば、１人１万円で 8 人限定のツアーです、みたいなそういう使い方。
○委員　限定がすごいのですよ、高くても満員になるんです。
○委員　阿弥陀堂の問題は、道が草ぼうぼうで放ったらかしになっていて、管理をだれもしないところなのですよ。何かイベントがあるときに、毎回人海戦術で道を整備している。
○井上スタッフ　ちょっと聞いてみて、もう本当に今は無理ですよという話だったらやめるにしても、とりあえずちょっとアプローチしてみたいと思いますので。
○委員　ぜひちょっとここを見させてください。
○委員　私は知らないのですけれども、湖山池にはヒシの実があるそうですね。そのヒシの実が食べたい食べたいとお年の方が言われます。そういうのを「食」で売り出せれば。
○木村観光コンベンション推進課長　吉岡などで使っていますけどね。
○井上スタッフ　福井の方でしょうかね、あるところは。
○委員　そう、福井は私の生まれたところなんですが、そのヒシ採りの撮影をしたいということで去年 NHK と話をして、セットしていたんです。ところが、風が吹いて完熟しているのがみんな折れてしまって。舟を出して、実際に舟から腹ばいになって採るようなところまで計画しておったのですけど。NHK の方もヒシの由来からなにから全部勉強していたんですが、残念ながら中止になりました。
　そういうこともあって、100 人委員会のときも湖山池の提言をした経過はあります。
○委員　ヒシはクリのような味がしますね。
○委員　クリのような味がするのは、もう完熟した状態。風が厳しく吹くときにはころんと落ちるのです。
　ヒシはこういうひし形でしょう。ヒシの実は一つの木にものすごくたくさん成るのです。子供をたくさん産めよという皆さんの願いで、おひなさんにひしもちを供えるということが中国から伝わってきたと聞いています。
○木村観光コンベンション推進課長　それは初めて聞いた。何かそれは使えそうですね。
○委員　新しい民話をつくりますか。
○委員　湖山池は春走ると、桜が延々とあってきれいですね。
○木村観光コンベンション推進課長　湖山池は早朝もきれいですね。雲のすき間を縫って、扇ノ山側に朝日がおりているのが見えますでしょう。
　それで今、遊覧船を出してくれている人がいまして、5 人、6 人、8 人乗りの 3 つの船を持っていらして、予約すれば、防己尾城の周りを遊覧していただけます。
○委員　多鯰ヶ池にしても湖山池にしても神社にしてもね、多過ぎるぐらい物語があって、風景があって、そして食べ物があるではないですか。それをいかに売り出すかですよね。みんなが知らないだけですよ。
○井上スタッフ　湖山池の前に吉岡温泉を見ていただきたいと思います。
　実は旅館さんが修景というか、景観整備を少しずつ始めて、風情が出てきているので、ざっと通ってみたいと思っています。本当は、秋葉公園とか、ミニ八十八カ所めぐりとか、吉岡温泉だけで半日つぶせるだけのネタはあるのですけど、とりあえず景観がどれぐらい直っているかざっと見ていただきたいなと思っています。
　お昼は浜村温泉で、浜村ビューホテルの 500 円の刺身定食。
○木村観光コンベンション推進課長　それだったら、遊魚センターがいいのでは。

○委員　安くていいのにこしたことはないでしょうけど。
○委員　どっちでもいいですけど、今でもあるのか確認してみてください。
○井上スタッフ　分かりました。

魚見台は車を降りて景色を見てもらいます。昨日は天気がよかったのですごくきれいでした。あそこをほとんど通らなくなったのではないかと思うので、また美しさを再確認してください。

次は白兎神社。これは、道の駅で休憩と、神社の方にも上がっていただきます。石段から上って見た景色もいいし、また道の駅から見る景色も面白いです。

その次はここから岡益の石堂に一気に行ってみます。昨日 20 何年ぶりで行ったら、立派な屋根がかかって。

○委員　すっかり変わりましたよ。
○井上スタッフ　別世界のようでした。今はきれいな屋根がかかっていてそっちに感心してしまいました。
○委員　反対側を下りると三十三観音がありますので、そちらも見てもらいましょう。
○井上スタッフ　その後はいったん市役所に帰ります。資料の裏面に行っていただいて、市役所から歩いていただきます。おおよそ１時間半。

市内観光に関しては、これはきのう歩いてみて非常に気持ちよかったのですが、市役所から観音院は、大工町通りをずっと行って、山の手通りを歩いて観音院まで。中は皆さん御存じですよね。距離感だけをつかんでください。

ここから樗谿公園の方に歩いてもらって、公園の入り口まで行って、今度はそこから興禅寺の方に行く道がてらに岡崎邸が見えます。

そういうところを見ていただいて、最後は高砂屋で休憩です。

○木村観光コンベンション推進課長　お客さんの満足を考えたら、岡益の石堂に行ったら、やはり長通寺のふすま絵、あのレベルの高い絵は見てもらうのが本当はおもてなしでは…。
○井上スタッフ　もちろんそうなのですよ。ただ、これは本来 5 つぐらいに分けて行うツアーを 1 日で回っているのですね。砂丘ツアー、国府ツアー、湖山池ツアー、気高方面、さらに市内観光。本当はこの 5 つがそれぞれ丸 1 日楽しめるコースなのです。例えば国府 1 日ツアーの中では長通寺もばっちり１時間は見てもらわなければいけないはずですし、石堂のあたりでも 30 分しっかり過ごしていただき、当然、万葉歴史館、国庁跡、池田墓地、全部回っていただいて、雨滝まで足を延ばしていただかないと意味がありません。ただ、岡益の石堂の距離感、市内からどれぐらいのところにあるかと、どれぐらいのツアーで飽きずに通して見ていただけるか、まず体感していただくためです。それを 1 日で見てもらったらこうなってしまったということなので。
○木村観光コンベンション推進課長　観光コンベンション推進課も、考え方として、上方往来のライン（河原、用瀬、佐治、智頭）の連携軸、それから西因幡のライン（賀露、湖山池、吉岡、白兎、鹿野、魚見台、青谷）。それぞれ 1 日分の素材が十分ある。それと、福部・砂丘・岩美のライン。それから、国府と鳥取の城下町。

うちの課の職員をそのラインごとに 2 名ずつ張りつけて、支所の職員とタイアップして商品づくりをしようということで今作業を始めています。

そのラインごとに大体一日、最低一日の素材はもう既にあると思うのですね。ただ、見せ

方、案内の仕方などの訓練や、食事をどこでするのかとか、途中、立ち寄るようなものを今の段階でもちゃんと整備していく必要がある。

○**井上スタッフ**　とりあえずツアーを組むところまでやって。後はもし時間があれば実際に一緒にツアーで回ってみましょうということにしたらいいのかなと思っていますので、ちょっと体感をしていただく。

○**委員**　歩くのも一日でするのですね。

○**委員**　自転車で回るという手もあるのです。鳥取城下町は自転車向きだ。

○**木村観光コンベンション推進課長**　そうですね。

○**井上スタッフ**　では、実際に視察する日は、6 月 12 日の週の 1 週間で、皆さんのご都合のよい日を調整します。

＜その他＞

○**委員**　観光ルートを設定するときに、マイカーで行くことを考えると、駐車場の問題を確認しておくべきだと思うのですよね。特に今は不法駐車が厳しくなりましたのでね。

○**木村観光コンベンション推進課長**　本当ですね。

○**井上スタッフ**　市内観光でいえば民芸美術館がないですよね。高砂屋もほとんどない状況。

○**委員**　近くに駐車場があれば、そこを御利用くださいというふうにパンフレットに書かないといけませんね。

○**井上スタッフ**　そこから民芸美術館に行こうと思ったら、ちょっと遠いので 100 円バスが生きてくると思います。玄忠寺も、赤バスのコースが近くにあります。

○**木村観光コンベンション推進課長**　ループバスが前を通るしね。

○**委員**　我々が知らない土地に行って駐車場があるかどうかわからないときに、一番いいのが、大きな建物、駅などの近くの駐車場に入れて、そこからループバスに乗りますね。それが楽です。もっと有効にする場合は、タクシーに乗って１時間貸し切りで行く。そうすると 4 人で乗っても随分安くつくということがあります。

○**木村観光コンベンション推進課長**　それが鳥取でも一番いいはずなのです。

○**委員**　観光をよく知っている運転手さんのタクシーに乗ったら、とてもいいですよ。

○**井上スタッフ**　今はもう鳥取にもマイスター制度ができましたから、よくなったと思います。

○**木村観光コンベンション推進課長**　利用が増えて、観光客なれしてくるということが大事ですね。

○**井上スタッフ**　そう。これまで観光地でなかった所でも、自分が住んでいるところに観光客の方がうろうろされるのになれてもらう。

○**木村観光コンベンション推進課長**　今日も鹿野に昼前に行っていたんだけど、ボランティアガイドのジャケットを着た女性が 20 人ぐらいの女性を連れて案内をして回っていたけど、ああいうのを頻繁に見るようになると、それが当たり前の風景になってくるというのは不思議ですね。

○**委員**　石見銀山なんかは、最初に行ったときは本当に寂れていたのが、今はそういう人たちがたくさん歩いています。それから、あそこは竹が多いからか、各家が竹に花をちょっと挿して飾っていますからね。

○**林副市長**　ちょっとしたおもてなしの心ですね。

○木村観光コンベンション推進課長　石見銀山で最初に一石を投じた、ブラハウスをやっている松場登美さんと何回か話したことがありますが、やっぱりああいうよそから来た人が地域に一人入ってきて、地域の反発をものともせず、地域に刺激を与えられる人がいるというのは強いですね。

○委員　やっぱりその地域の何かを崩すのはよその人ですかね。

○木村観光コンベンション推進課長　そんな気がしますね。

○井上スタッフ　内側の人であったとしても、やっぱり客観的に見られる人ですね。多面的に見られる人が意見を出せる。

○委員　いろんなわだかまりがない人がやりやすい。

○委員　先ほどの講演では姫路城の話がありましたが、姫路城は世界遺産ですから、いくら阿弥陀堂がいいといっても世界遺産と勝負できる話ではない。ただ、例えば「心いやしの田舎」観光とか、違うチャンネルで勝負をした方がいいのではないかと私は思いますね。

○委員　実は明日、東京から10数人お客さんが見えるのです。どこを回られるのかというと、1時に飛行機で着いて、砂丘、県立博物館、鳥取城。これで半日使って夜はこぜにやに泊まる。あさっての朝は樗谿公園に行って、樗谿神社、やまびこ館を見て、それから芳心寺に行って、これで午前中。昼をニューオオタニで食べる。午後は池田墓地と大雲院を夕方まで見て、それから三朝に移動して、斉木別館に泊まる。その明くる日は、三仏寺、白鳳の里、妻木晩田を見て、米子空港からの飛行機で帰る。これは完全なマニアです。

○委員　随分時間もゆっくりとってあるようですね。

○委員　博物館でも学芸員と必ず会って話をすると。

○林副市長　でもやっぱりそういうことを求めるニーズがあるのですよ。

○委員　だから、こうして丁寧に鳥取を見たいという人もある。県内に2泊もしてもらえるということも可能性があると思えました。

○委員　ジュネーブの美術館の学芸員をしている人がスイスからうちに去年と今年来たのですけど、その方は鳥取に4日間滞在してくれたのですよ。初めは私の七宝を習いに来たのですが、非常に日本的なものが好きで、まず砂丘は行き、それから樗谿に行って、それから仁風閣に行って、後は日本的なところを連れていったり。一生懸命で考えて、とにかくまず風景を見て、日本建築がある写真を撮るのですよ。何でこんな日本建築のいいのがあるのに、こんなつまらないアメリカのまねをしているのだとか言われるんです。鳥取は第二のふるさとになりそうだと言って。

○木村観光コンベンション推進課長　そんなところがたくさんあるのですよ。鹿野の景観形成をやっているときに、東大の専門家の先生が来ていて、近所を案内したときに、布勢の清水という名水百選に選ばれたところがあるんです。山の下に石垣の水路が流れていて、わき水がざあっとかなりの勢いで流れていて、石垣の向こう側に昔の農家が、ずうっと門構えのある農家があって、目の前に田んぼが広がるような。こういう風景や景観というのはもうないよ、こんなものをもっと使った方がいいよというアドバイスをされたのですよ。

○委員　そうでしょうね。よそから来た人はそれがわかるという。

　それともうひとつ、その人が言うには、鳥取の博物館は世界に誇っていいよと言ったのですよ。なぜかと聞いたら、セキュリティがすごい、これは一級だと言っていました。日本の中でも何本かの指に入るぐらいのセキュリティ技術ですって。だから、ここは国宝を幾ら持

ってきても展示できる。だから、私も全国から2回国宝を持ってきましたけどね、保険が安いのです。ほかのところでやったら、もう保険が入れない。だけど、そういうことでここは保険が安いのです、掛金が。ですから、やっぱり鳥取にもいいものがあるのですから、知らないといけない。この前も芸大の教授が来て、講演してくださったのですが、そのときも、ここのセキュリティは立派だというのをちゃんと知っていましたね。

○**委員**　県の西部が情報の共有化ということで大山王国の取組みをやっていましたが、こんどは中部が梨の花温泉郷という取組みを強化しています。

東部は今後、さっきの因幡の祭典に取り組むときに、但馬の方との連携ということが言われているのですが、東部のホテル業界のある方は但馬に泊まってほしくない、鳥取に泊まってほしいと言われるんですね。

連休のときに日帰りで湯村温泉に行きましたら、湯村温泉のマップには鳥取砂丘から1時間ぐらいですということが書いてあるんですね。だけど、鳥取の側の方には湯村の方のをマップに出さないでしょう。だから、今後の課題としては、本当の連携とは一体何をどうするのかというのが一つ。

それと、田舎ツーリズムの取組みについてなんですが、地元の農業婦人会の方々が地産地消で料理とかをいろいろ作っていらっしゃるでしょう。そういうのを食べられるよう場所はどこかとか、そんな情報を表に出してこれないか。

実際に今、京阪神の方々のニーズの中で、わざわざ農家体験を子供にさせるというか、お金を出して泊まらせて、田植え、稲刈りをさせて握り飯を食べさせる。そういう田舎ツーリズムが商品になっています。だから、そういう方向でももうちょっと掘り下げていくと、因幡の祭典なんかにも活用できるのではないかなと思います。

何もないという発想ではなくて、まあ世界遺産はないけど、今は田舎がクローズアップされていますから、既存のある程度でき上がったもの以外に、まだそういったものを作りこんでいくのも必要ではないかという気がします。

○**井上スタッフ**　では一つ、農業者の女性団体の田舎料理の話をちょっと説明させてもらいます。実は前、農林水産課にいたので、そういう担当もしていました。実際いろんなところで田舎料理をやっています。

どういう系統でやっているかというと２つありまして、県の農業改良普及所が持っている生活改善実行グループという団体。もう一つは農協の方、農協女性会という団体。それぞれが田舎料理の底上げ、ブラッシュアップをして、みんなに食べてもらうという取り組みはしていますが、やっぱり農業主導というか、農業の中でのあれであって、観光に持っていくというところまではまだ行っていないようです。

ただ、うまくきっかけを出してあげれば、そういうことを提供していただける土壌はある。実際、岩美町の鳥越のどんづまりハウスは生活改善実行グループの取り組みの中でされていて、10年前からやっている、本当は山奥でやっている田舎料理の山小屋のところの料理の取り組みが今も続いている状況ですので、ちゃんとやればちゃんと続く。

しかも、何でそういう田舎料理が出せるかというと、実は葬式を出すとみんなが村で葬式の料理を作るのです。だから、実は農村地域は大量生産の仕組みはできているのです。そういう仕組みは既にあるところなので、やりようによってはちゃんとできると思います。

○**木村観光コンベンション推進課長**　それから既にグリーンツーリズムという農家民泊の取組

みがありますね。河原の神馬、鹿野の鬼入道、河内、この３カ所ぐらいですよね。ほかにも上野山とか福部の清内谷。

ですから、そういう素材をやはり具体的にしないといけない。やっぱりレベルを引き上げる。それと、そこの農家民泊にはどんなツールがあるのか。例えばトラクターを運転させる、あるいは田植えをさせる、収穫をさせる、例えばホタルを見に行くとか、そういういろんな楽しみ方のツールを、グリーンツーリズムの中にどれぐらい組み込んでいけるか。そのために、地域のインストラクターをどう育てて形にしていくかというところが、この 3 年間の作業のすべてだと思います。

○**委員**　それで、今、しきりに 3 年とおっしゃったのですけどね、逆算していくとね、2009 年の 4 月でしょう、半年前に広報をするとしたら 2008 年 10 月ですよ。ポスター、内容がその手のパンフレットを刷りに出すとしたら、2008 年の 7 月ぐらい。そうすると、今は 2006 年 6 月ですから、あと 2 年です。3 年間ではなくて、2 年間のうちに形にしないと出せない。

情報発信を非常に丁寧にやっていくとしたら、本当にぎりぎりなんですよ。

○**木村観光コンベンション推進課長**　ただ、今言われる非常にぎりぎりの時間の中で、にせものをつくってはいけない。にせものをつくらないためには、本当に土壌をちゃんと耕しておかないとできない。やっつけ仕事ではできないことを本当にこれだけ短い時間でやろうとしている、無謀な話なのです、本当は。

2009 年というのは、あくまでも通過点なのですよね。2009 年ですべてが終わるわけではない。むしろ、一つの通過点をベースにして次々脱皮できるような仕組みを地域につくりながら、やっぱり地域の素材の良さを、一つの地域の観光の柱として立ち上げていかなければいけない。非常に短い間に非常に重要なことをしようとしている。

だから市民総出で、地域の意識の切りかえをしながら取り組まないと、行政側だけ、あるいは一部の市民だけが思っていても、実現できないと思います。

○**委員**　それで、先ごろ先人の文学史をもっと表に出そうという取組みをされていますが、それも文学ツアーという形で行えば、文学好きの人がたくさん来られる観光になるわけですよね。

○**委員**　だから、少しテーマ別で、例えば放哉の石段とか、文学者の道とか、神話のコースだとか、そういうツアーを組むこともできるのです。

○**委員**　文学とか田舎体験とか、チャンネルをいろいろとふやしていくことが大事だと思います。

○**井上スタッフ**　やはり鳥取のすごいのは文化度の高さです。自然も文化も同時に存在している。

ちょうど時間となりましたので、では日程を調整して視察を行いたいと思いますので、またよろしくお願いしたいと思います。では、きょうはこれでおしまいとします。ありがとうございました。